様式１

研　修（研　究）報　告　書

令和２年　　３月３１日

玉名市議会
議　長　　中尾　嘉男　様

氏　名　吉田真樹子

下記のとおり、参加（開催）しましたので報告します。

参加議員	吉田真樹子		
日　　時	令和元年　　7月27日（土） 午前　10時00分　～　午後　12時00分		
場　　所	菊池市深[redacted](山口法子宅)	参加者数	6名
研修(研究)事項	不登校の子どもをもつ親の支援について		
概要及び所見	別紙添付		

別紙

令和元年7月27日(土)
『タン♪カルム』…　不登校の子どもを持つ親への支援の会

5月に出会った山口さんから、「不登校の子どもの親への支援がしたく講演の場を探しているので協力してほしい」と言われました。
どんな取り組みをされているのかを確認するため月に一度開催される『タン♪カルム』に参加しました。

地元の美化作業で知り合いになった方の子どもさんが中学生で不登校中と聞いておりましたのでTさんもお誘いしました。

会場は山口さんの菊池の自宅でしたので菊池市の猿渡議員にもお声掛けをしました。その日は6人の参加でした。

自己紹介から始まり子どもさんの過去の不登校話を先輩お母さんたちが話され不登校進行形中のお母さんが涙を流しながら話をされる。
どうしていいか分からないと言われるお母さんに先輩は、「とにかく待ってあげて。いつかわからないけど変わるときが来るから」と。
涙を沢山流し合い、何ともいい会でした。

学校に行かない息子を車に無理やり乗せ送る途中、信号で停車したとたんに車から降り逃げたのを泣きながら追いかけた。
などの実際の話に参加した悩めるお母さんたちは「辛い思いをしているのは自分だけじゃない」と涙を流しすっきりと気持ちを切り替えて帰られていました。

玉名市での不登校の状況と、不登校の子どもの親への支援について調べてみようと思いました。

様式１

研　修（研　究）報　告　書

令和２年３月３１日

玉名市議会
議　長　　中尾　嘉男　様

氏　名　　吉田真樹子

下記のとおり、参加（開催）しましたので報告します。

参加議員	吉田真樹子		
日　　時	令和元年１０月２６日（土） 午前１０時００分 ～ 午後０時００分		
場　　所	菊池市深[redacted]（山口法子宅）	参加者数	６名
研修(研究)事項	不登校の子どもをもつ親の支援について		
概要及び所見	別紙添付		

別紙

令和元年１０月２６日（土）
学校へ行きたくても行けない子どもが年々増加しております。
過去、娘さんが不登校だった方がSNSで『タン♪カルム』を知られて「自分も今、辛い思いをされている方の力になりたい」と連絡がありましたのでご一緒しました。
私は、2回目の参加となりました。

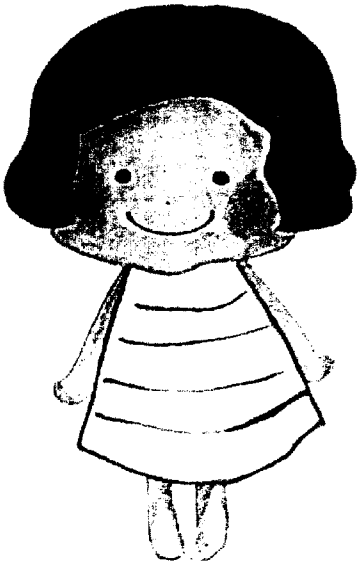
ご一緒した方はお父さんで、タン♪カルム初の父親の参加だと言われておりました。
この日の参加も6人でした。

しかし、自分の子どもの不登校時代は終わられているのに参加費を出してまでアドバイスをして下さる。
とてもいい場と流れが出来ていると思います。

玉名市の取り組みを調べましたら、立派に『子育て学習会』として発達障害と不登校に悩む親への支援は長年にわたって実施されていました。

タン♪カルム主催者の山口さんは、「菊池郡市 PTA 連絡協議会」で講演をされた経験もあられます。
玉名市で開催されている「子育て学習会」で是非、講演会をやることをお勧めしたいです。
前向きになれて考え方、生き方まで変わり子どもと向き合える可能性は大いに期待出来ると私は思います。

親に笑顔を
子どもに夢を



不登校家族
支援の茶話会
やってま～す☕

まずはお電話
下さい♡
☎080-[redacted]42

カウンセリングルーム
タン♫カルム

代表　山口　法子

〒861-1304
熊本県菊池市[redacted]
TEL 0[redacted]
E-mail[redacted]@gmail.com

タン♫カルムとは・・・穏やかな時間
皆様が心穏やかになるお手伝いをいたします

資格

♪心理メンタルケア・ハートケアカウンセラー
♪子育て支援カウンセラー　※不登校・ひきこもり家族支援
♪スピリチュアルアロマセラピスト
♪こども食育健康管理コーディネーター
♪霊気伝授　♪防災士　♪着物着付け上級講師

様式１

研　修（研　究）報　告　書

令和２年３月３１日

玉名市議会
議　長　　中尾　嘉男　様

氏　名　　吉田真樹子

下記のとおり、参加（開催）しましたので報告します。

参加議員	吉田真樹子		
日　　時	令和２年１月２６日（日） 午後２時００分 ～ 午後５時００分		
場　　所	植木文化センターホール	参加者数	４５０名
研修(研究)事項	自立した人財へ！　生きる力を育てる為に！		
概要及び所見	別紙添付		

別紙

日本の未来を担う子どもたちに１番影響力があり頑張っている先生を応援する。熊本から先生たちを輝かせてその姿を見た子どもたちが憧れ、未来に繋げていく。そして『熊本から日本を盛り上げて繋げる』をコンセプトに開催されました。

現在の小・中・高の子どもたちに「自分の将来に希望を持っていますか？」と聞くと小学生が 50%。中学生・高校生では 80～90%の子どもが「希望を感じない」と答えているそうです。
大きな原因は大人の姿と主催者は言われる。

講師　お一人目は中村文昭氏。
三重県で飲食店を経営し現在は講演活動・人材育成にも力を入れて全国を飛び回られている方。
離農が進んだ北海道の農地を借りて　都会で引きこもり・ニートと呼ばれる若者たちと農業も行なっている。
小・中・高校と学校からの講演の依頼も増え教育現場の活性化にも強く関心を抱いている方です。

私は、15 年くらい前だったか天水で中村文昭氏の講演会が商工会の主催？でありましたので聴いたことがありました。
講演の最後にあります質問の時に緊張しながらも手をあげたことを思い出します。
村の 97%が山林 2%が川、1%が民家というそんな田舎で中村さんは子ども時代を過ごされたそうです。
お母さまの英才教育が良かったことをこう話されました。
魚を獲って帰ると「凄い、偉い、あんたは天才だ」と毎日毎日言われる。
日々「天才」と言われ続けて「オレは天才なんだ」「お金持ちになるんだ」などと思い込んで育ったと話された。
だから今でももっと楽しいことをして、もっともっといい人生が来ると思っているそうです。
親が笑顔で認めてあげると子どもは自分に自信を持ち益々認められたいとなり努力していい連鎖が続く。
現代社会では大半の人が、「こうしなければ、こうでなければならない」と怒られるとか、恐れがあるため「ねばならない」の考えで動く。

しかし、5%の人は、愛で動いていると話されました。
やりたいからやる、喜んでもらいたいからやる、そんな人は見た目から機嫌の良さが溢れている。そこに人は関わたいと集まるという連鎖があるのだと感じました。
まず自分をつくることからがスタート。また、人とのご縁を偶然ではなく必然と考えそのご縁を活用させて頂いて行動に移すことで大きく未来が変わることが伝わりました。

お二人目は田上善浩氏。
熊本市出水にあります『一般社団法人　WING SCHOOL』代表理事・校長をされております。
現在は、60名以上子どもたちが通っている。「感性」「知性」「創性（プロジェクト力）」の三層「幸せな未来を築く力」をつけるための教育を展開されています。
この講演会前にスクールを見学させて頂きました。
そこには過去不登校だったという子どもたちが凄く伸び伸びと元気にいました。
講演会ではWING SCHOOL職員若手先生の超コンパクト授業がありました。
分かりやすく惹きつける内容に他にもなりました。
「あこがれ先生」・・こういうことかと感じました。

今回の講演会は前に聴いたこともある中村文昭さんでしたの聞きたくてワクワクしました。
これから社会に出る子どもたちが聴くと人生が楽しみになるのではないでしょうか。
現在、不登校の子どもは年々増加しています。
時代の流れと共に、学ぶ場所を選ぶことが出来るように教育現場も変わっていくべきだと思います。

玉名市では、6月には市民会館が会館。今年度はこけら落としの年として各種催しをやることを企画部長が言われておりました。
玉名にお呼び出来るように聞き取りを進めてみようと。

熊本県教育委員会　熊本市教育委員会
合志市教育委員会　後援

大人が変われば
子供が変わる
★　子どもが変れば
未来が変わる

自立した人財へ！生きる力を育てる為に！

全国各地には生徒のために本気で泣き、本気で叱り、本気で大笑いしてくれる
素晴らしい先生たちが沢山います。
しかし、テレビなどメディアでの教育現場の話題となると暗いニュースばかり…
不祥事を起こすような先生がいることもひとつの事実かもしれませんが、
表に出てこないだけで素敵な先生や、素晴らしい教育理念を持った学校は
たくさんあります。そういった先生方や学校にスポットがあたる場所を
つくり、たくさんの方に知ってもらいたい。
学校という場所が子ども達にとって、先生にとって、そして地域にとって、
もっと素敵なもっと楽しい場所になってもらいたい。
あこがれ先生プロジェクトはそんな輝く先生を全力で応援します！

輝け！

第2回

あこがれ先生

AKOGARE Teacher
プロジェクト　in くまもと

2020.1.26日　14:00 開演（13:30 開場）

植木文化センターホール
〒861-0136 熊本市北区植木町岩野 238-1（tel.096-272-6906）

大人　3,000縁（当日券 3,500縁）　学生【100名限定】　1,000縁

お申込みは、
裏面をご覧ください

様式２

先進地（現地）調査報告書

令和　２年　３月　31日

玉名市議会
議　長　　中尾　嘉男　様

氏　名　　吉　田　真　樹　子

下記のとおり、先進地（現地）調査を行いましたので報告します。

調査議員	多田隈　啓二　　北本　将幸 吉田　真樹子　　吉田　憲司
日　　時	令和　元年　６月１日（土）～令和　元年　６月　２日（日） 午前・（午後）　１時００分　～　午前・（午後）４時００分
調　査　先	山形県東根市
調査事項	マラソン大会・公共施設
調査先面会者	東根市　市長　土田　正剛 東根市副市長　[redacted] 東根市議会事務局　局長補佐　[redacted] 東根市議会事務局　議事主査　[redacted]
概要及び所見	別紙添付

別　紙

藏原市長の「フルマラソン」宣言に伴い、また、ＮＨＫ大河ドラマ「いだてん」の走り方の監修、さらには、玉名市の地域づくりシンポジウム（スポーツを核にした地域振興、金栗スピリッツで地域も住民も元気に・・・）のパネリストでもあった、金哲彦さんの勧めで、山形県東根市への視察を行った。

東根市は、人口４７０００人で、さくらんぼの「佐藤錦」が特産品であり、毎年１２０００人が走る、さくらんぼマラソンが開催されている。

また、東京駅から、さくらんぼ東根駅まで、ランナーだけを乗せた山形新幹線が走り、地元の宿泊施設とのパック商品は、毎年完売しているようだ。

人気の秘密は、さくらんぼの美味しさはもとより、行政、住民、学校、企業等がそれぞれに知恵と工夫をこらした、おもてなしや応援が素晴らしかった。

駅では、ホームでの歓迎、駅構内での歓迎セレモニーや、場所を移しての歓迎レセプション、他にもゲストランナーによるトークショーなど、盛りだくさんであった。

また、コースでは、子ども達が、４７都道府県のプラカードを持っての応援、農家の自宅前での「佐藤錦」の振る舞い、ある企業は、冷え冷えのタオルの提供、冷たいミストの設置等々、更には、暑いのに、目の前には、残雪をたたえた月山を見ながら走るコースは、ランナーに好評のようです。

事務局からの説明と、実際に走ることで、ランナー目線での受付や運営、おもてなしも含めて、とても参考になり、来年２月に開催される本市での、フルマラソン大会にも反映できればと感じた。

また、初日には、東根市職員の取り計らいで、ふたつの子育て支援施設を視察させてもらった。ひとつは、「タントクルセンター」といい、子ども達が雨でも思いっきり遊べる、３階まで吹き抜けの遊具のあるスペースや幼稚園、それに、５００人収容のホールがいっしょになった複合施設であり、これより大きいホールは市内にはないとのことでした。

もうひとつは「あそびあらんど」といい、広大な敷地に、池、芝生すべり、田んぼ、砂場、更には、のこぎりや金づちなどがおいてあり、泥んこになりながら、子ども達が、自由な発想で遊べる施設であった。多少のケガはつきものだが、ケガはお持ち帰りくださいとの、市長の方針が理解されているようだ。

このように、子育て支援施策が充実しており、山形県では唯一人口が増加しており、新しい小学校が、マラソンコースの途中に建設中であった。

１泊２日の短い視察研修であったが、２日間にわたり、市長、副市長、職員、そして、金哲彦さんとも、充実したお話ができたことが、１番の収穫であった。

マラソン大会も、子育て支援も、東根市の熱意を体感できたことに、感謝したいと思う。

ここで、見たこと、聞いたこと、感じたことを、玉名市においても、少しでも活かせていければと思う。「以下余白」

様式２

先進地（現地）調査報告書

令和　２年　３月 31 日

玉名市議会
議　長　　中尾　嘉男　様

氏　名　　吉　田　真　樹　子

下記のとおり、先進地（現地）調査を行いましたので報告します。

調査議員	多田隈　啓二　　北本　将幸 吉田　真樹子　　吉田　憲司
日　　時	令和２年　２月　７日（金）～令和２年　２月　７日（金） 午前・午後　９時３０分　～　午前・午後　１１時３０分
調　査　先	香川県　宇多津町
調査事項	子育て支援について
調査先面会者	宇多津町長　谷川俊博　　町議会議長　宮本たかし 議会事務局長 [redacted] （その他、保健福祉課長・健康増進課長・まちづくり課長）
概要及び所見	別紙添付

別　紙

厚生労働省の発表によると、２０１９年の出生数は８６万４千人となり、初めて９０万人を割り、超少子高齢化に伴う、人口減少社会は、国の推計より２年も早く進行しており、深刻さを増している。

このような中、移住、定住、妊娠、出産、子育て等に対する、独自の施策や支援を行っている自治体が多い香川県へ出向した。香川県は「うどん県」として有名であるが、現在は「子育て県」として知られている。

その中の、宇多津町は、人口１万８千人、議員数は１０人の町である。

宇多津町は、４７都道府県の中で１番小さな香川県。その中でも、１番小さな町ではあるが、「小さいながらも☆キラリ☆と光る町」をキャッチフレーズに、右肩上がりで人口が増加している町である。

高度経済成長期には工業地帯が作られ、昭和６３年に本土（岡山県）と瀬戸大橋が完成し、３０分くらいで行き来ができるようになり、さらに、平成に入り、旧塩田地帯を宅地化したことにより、大型商業施設が立地し人口増の要因となっている。

将来的にも、人口増加を拡大することで、将来に向けた持続性のある地域力を築くため、様々な施策がなされている。

市の直営の「はぐはぐランド」は、親子の交流の場、子ども達の遊び場があり、児童虐待、ひとり親家庭等、悩みや相談を受けるなどの環境が整っており、すべて無料である。

また、市長肝いりで開設された子ども食堂（社協委託）が、月に１回開設され、子どもは、１回１００円で利用できる。

それから、交通弱者対策として始まった、タクシー券の助成について、母子健康手帳の交付を受けた妊婦さんも申請すれば、１２０００円分の助成をうけることができる。

町内の公立の小学校、中学校の新入学生の制服代をひとり当たり、１５０００円を補助している。（町内から町外への入学は該当しない。）

さらには、交通の利便性や海も山も商業施設もあるという、とても良好な立地条件であるため、移住定住にも力を入れられている。

空き家リフォーム補助は、費用の２分の１（上限１００万円）、家財道具の処分は、費用の２分の１（上限１０万円）。

新婚世帯家賃補助は、最大２４万円（月／上限額１万円　×　２４ヶ月）。県外からの移住新婚世帯は、最大５４万円（月／上限額２万円　×　２４ヶ月　＋　初期費用６万円）。

最も、印象的な施策として「ふるさとファンミーティング」の開催である。これは、ふるさと納税をしてくれた方を、宇多津町のファンとして招待し、１泊２日で、稲刈り、瀬戸内海クルージング、夜景観賞、お遍路体験、朝うどん、ふるさとランチ等が実施され、参加者との意見交換を行い、住民サービスや観光交流の課題や改善点などを洗い出す目的の事業である。

これらの施策も、善通寺市と同じく、現場主義が徹底され、現場の「声」を反映したものであろう。元々がコンパクトシティの宇多津町だが、玉名市としても検討してみたい。

「以下余白」

様式２

先進地（現地）調査報告書

令和　２年　３月 31 日

玉名市議会
議　長　　中尾　嘉男　様

氏　名　　吉　田　真　樹　子

下記のとおり、先進地（現地）調査を行いましたので報告します。

調査議員	多田隈　啓二　　北本　将幸 吉田　真樹子　　吉田　憲司
日　　時	令和２年　２月　６日（木）～令和２年　２月　６日（木） 午前・午後　１時００分　～　午前・午後　３時００分
調　査　先	香川県　善通寺市
調査事項	子育て支援について
調査先面会者	善通寺市　市議会議長 善通寺市　保健福祉部子ども課　課長 [redacted]
概要及び所見	別紙添付

別　紙

厚生労働省の発表によると、２０１９年の出生数は８６万４千人となり、初めて９０万人を割り、超少子高齢化に伴う、人口減少社会は、国の推計より２年も早く進行しており、深刻さを増している。

このような中、移住、定住、妊娠、出産、子育て等に対する、独自の施策や支援を行っている自治体が多い香川県へ出向した。香川県は「うどん県」として有名であるが、現在は「子育て県」として知られている。

その中の、善通寺市は、人口３万２千人、議員数は１６人の市である。

１番の特徴としては、児童福祉と母子保健が一体となった、子育て支援の総合的な拠点として、市役所本庁舎の隣に「子ども、家庭支援センター」を設置し、子どもの成長に応じ、妊娠から思春期まで、また、親の立場からすると、離婚相談、就労支援、ひとり親家庭のサポートまで、すべてがワンストップで対応でき、保健師、児童相談員、女性相談員等の専門職が対応している。

また、子育て世帯の交流、情報交換や相談、さらには、休日保育、病児保育、延長保育などができる施設を網羅した「善通寺子育て応援マップ」を作成し、情報発信を行っている。

特に、善通寺市の独自の取り組みとしては。ファミリーサポートセンターを開設し、一時的に、育児や家事援助を必要とする家庭に対し、ホームヘルパーを派遣する、子育てホームヘルプサービスを実施している。

それから、公立、私立問わず保育所で使用済み紙おむつを回収し、市が全額を負担して処理を行っている。この年間予算は１４０万円とのこと。

また、通常の３歳児検診に加え、５歳児検診に力を入れている。５歳くらいの方が、発達の度合い、特性をより把握できる。そして、検診後のフォローに重点をおき、大学や教育委員会等と連携して支援に取り組んでいる。

この善通寺市は、昨年、東京都目黒区で当時５歳で亡くなった、船戸結愛ちゃん虐待死事件において、この家族が目黒区へ転居する前は、善通寺市に居住していたことから、市や児童相談所等の行政間の情報伝達、共有が一部うまくできていなかったことを踏まえ、近隣の４市５町と「育児支援ネットワーク会議」を市内の病院（四国子どもとおとなの医療センター内）に設置、さらには、香川県警察本部とも協定を締結し、多方面からの情報の共有を進めている。

このように、切れ目のない支援体制と、関係機関とのスムーズな連携体制がとれている。

最後に、これらの施策に当たっては、市長自らが、現場に足を運び、市民の「生」の声を聞いているとの、言葉が印象的であった。

これらの施策が、玉名市にとっても、有効であるのか、検討する余地はあると思う。

「以下余白」